

ほんの少しだけの味方

校長 高田 晶子

保護者・地域の皆様方には、ご健勝にて新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。令和5年新たな年がスタートいたしました。旧年中は元郷中学校のためにご支援賜りましたこと厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



さて、新しい年を迎えると「よし！今年は、〇〇を頑張ろう！」などの会話をよく耳にするとおもいます。何かを始めようとする意気込みが高まるからでしょうか。元日からとても気持ちのよい天候でしたので、私も運動不足解消と意気込み、自宅周辺を歩いてみました。歩数計を見たら、なんと1万7千歩でした。少し満足感を得ましたが、これを継続できるかが大きな課題です。

そのような時に、『ないようであるかもしれない』（著者：星野概念）という本を読みました。その中で、“ほんの少しだけの味方”という言葉が目にとまり、著者は「参拝に行ったり、厄払いをしたりなどのおこないをしていると、なんとなく安心した気持ちになり、自分の人生を心地よくしていくための、ほんの少しだけの味方を得たような気持ちになる・・・」「～をしたから大丈夫だろう」などの形で他力本願が許されるような気持ちになり、孤独な気分が少なくなる」と書いていました。自分を振り返ってみると、著者も触れていたのですが「困った時の神頼み」や「苦しい時の神頼み」の言葉が頭に浮かび、自分が困った時にだけ神様や仏様に頼ろうとしたことを思い出し、これが“ほんの少しだけ心の味方”になってもらっていたことなのかなと思いました。

そこで、今の時代で考えてみると若者のトレンドにある“推し活”がそれに近いのではないかと思います。2021年の流行語大賞にノミネートされるほどよく聞く言葉ですが、“推し活”は、自分が好きな人や物を応援する活動、推しに愛情を注ぐ活動全て、とされています。昔から、ファン活動のようにライブに行ったり、グッズを買ったりする行動はありました。しかし、今の時代はSNSからの情報発信もあるので、大人が思う活動以上に展開が早くどんどん進化しています。“推し活”に夢中になることによって、幸せ感を得たり、日々の生活を頑張ることができたりする、この時代に生きる若者の“ほんの少しだけの味方”になることにもつながっているように感じます。SNSの活用もあるので、熱が入りすぎてしまうと十分注意しなければいけないこともあります。昔も今も推しに夢中になって“推し活”するということは変わらないのだなと思いました。

そのようなことを思いながら今年もスタートしました。私たちが毎日幸せを感じ、元気に生活している。それは、心に、“ほんの少しだけ味方”をそれぞれが見つけながら暮らしているからなのかもしれません。心身ともに健康的に過ごしていきたいものです。